紙相撲新聞
第162回本場所
中日～七日目号
編集・発行
日本紙相撲協会

大神楽鬼ヶ嶽全勝

大神楽鬼ヶ嶽２強の様相
千代鈴はまたも磯自慢に苦杯

【第百六十二回本場所中日～七日目】

関東地方も梅雨入り宣言がされたものの、晴天に恵まれた６月２２日に中日と七日目が行われた。

七日目を終えて、全勝は大関大神楽と小結鬼ヶ嶽の２人。これを新入幕で幕尻の西勢ノ里が１敗で、さらに横綱千代鈴、横綱若ノ嶋ら９人が２敗で追う展開となった。

悲願の横綱昇進を狙う大関大神楽は中日に綱乃花、七日目に四季嶋の両関脇と対戦。中日は前日に大関西神門に勝って味をしめた綱乃花がのど輪で来たところを引き落としで勝つと、七日目は速攻の寄りで四季嶋を圧倒して初日から土つかずの７連勝とした。

綱乃花●（引き落し）○大神楽

磯ノ海親方は中日の取組前、中日、七日目の取組のことではなく、「今場所の鬼ヶ嶽が先場所までとは違って強いよ。これに勝つかどうかだよ！」と早くも八日目に対戦が予想される小結鬼ヶ嶽との対戦の心配をしきりにしていた。

↑先場所先々場所と６連勝から七日目に黒星を喫し、鬼門かとも思われた大神楽だが、今場所は四季嶋相手に安定の取り口を見せ、堂々の七連勝。八日目の鬼ヶ嶽戦が正念場だ。

↓鬼ヶ嶽も絶好調。上位との対戦もほぼ終え、残るは大神楽、綱乃花、磯自慢あたりか。割の上では横綱戦を残す大神楽に比べ有利な展開だ。

全勝　大神楽、鬼ヶ嶽
一敗　西勢ノ里
二敗　千代鈴、若ノ嶋、磯自慢
龍不動、勝ノ川、夢ノ花

その鬼ヶ嶽は中日に５戦全勝同士で平幕の喜乃郷との対戦で左を差されたが辛くも勝利すると、七日目は小結同士の対戦で剛勇山をまったく寄せつけず、大神楽とともに全勝を守った。

鬼ヶ嶽○（引き落し）●喜乃郷

いよいよ八日目に７戦全勝の両雄が対戦することになりそうだ。今場所の優勝を占う大一番となるだろう。

鬼ヶ嶽はすでに２横綱１大関との対戦を終えているが、大神楽は九日目から横綱大関との対戦となるだけに、大神楽としてはこの一番に勝って勢いをつけて是が非でも優勝を勝ち取り、悲願の横綱を手中にしたいところ。

この２人を星一つ差で追う新入幕の西勢ノ里。まだ幕内での勝敗実績がないだけに、その力量は未知数。

今後、上位との対戦が組まれる可能性もあるが、果たしてこのまま白星を重ねられるかどうか注目したい。

横綱千代鈴は二日目に鬼ヶ嶽に苦杯を喫したものの、三日目から立ち直り中日も宇治家に完勝し、迎えた七日目は先場所に初顔で敗れた磯自慢との対戦。

本来の千代鈴なら立合いに引きつけて左を差すとそのまま正面に相手を寄り切るのだが、左を差しながらも磯自慢に左に回られて寄り切ることができない。少し体勢を低くして出ていこうとしたところ、磯自慢が渾身一滴の上手投げを打つと、千代鈴の身体が大きく回転して土俵に転がった。

磯自慢○（上手投げ）●千代鈴

「え～！磯自慢が投げたよ～！」「千代が投げを喰ったのは初めて見たぞ！」と館内は大騒ぎ。春日根親方も「稽古場でも千代が押し倒されることはあるけど、投げられたのは今まで見たことがない」とのこと。

磯自慢はまさに「千代鈴キラー」。これで益々、春日根親方は磯自慢の顔を見たくなくなることだろう。千代鈴は痛い２敗目を喫し、優勝争いから大きく後退となった。

今場所に進退を賭けて出場の横綱若ノ嶋は三日目までに１勝２敗と剣が峰に立たされたが、四日目から連勝して３勝２敗と白星が先行。

鹿賀乃戸親方から「夢の白星先行」と冷やかしの声を掛けられた一方で、春日根親方からは「土俵に馴染んできましたね」と評され、途中休場を含め３場所土俵を遠ざかっていたが、どうやら少しずつ土俵感が戻ってきた様子。

中日は鉄甲に２日連続の押し倒しで勝つと、七日目は綱乃花に対して立

綱乃花●（押し出し）○若ノ嶋

「磯自慢の憎たらしい顔は見たくもない！」と吐き捨てるように言う春日根親方。先場所は完敗と言った相撲内容で、磯ノ海の潜在能力の高さを親方連中に示す一番となった。

果たして先場所はたまたまだったのか、それとも本物だったのか、この一番に注目が集まった。